

展望と主張: 農業政策

農業による国家、社会への貢献は、単なる生産にとどまらない。農業は生態環境及び生活や文化の基礎と結びついており、持続可能な農業は国家生存の根幹である。台湾の農業は、経済発展の初期において、工業発展を支えており、例えば、サトウキビの輸出による外貨獲得や肥料換穀政策による政府税制収入への貢献などがその具体的事例である。農業がなければ台湾はないとも言え、経済発展に伴って、農業の生産額や付加価値が全国のGDPや付加価値に占める割合は日増しに低下しているが、台湾において農業の重要性が低下したというわけではない。

近年、国内の農業部門は幾多の厳しい試練に直面しており、特に経済発展のプロセスにおいては、繰り返し農地が徴収され農地が流出したことによる世代間正義の問題、農業労働力と農地の長期的な構造的な問題からくる農業競争力向上の困難さ、農業政策における産業政策と福祉政策の混同、貿易自由化によってもたらされた大量の輸入農産品、気候変動による農民の生産リスク上昇、伝統産業の流出による農民の所得減、貧富の格差及び農村・都市格差の悪化による農民の転職難等があり、これらはみな解決せねばならない時を迎えている。

ここで、本シンクタンクは台湾農業の発展のビジョンとして、「安全な農業」、「幸福な農民」、「美しい

農村」を提起し、この農業ビジョン三項目を実現するために、農業政策について五つの核心的価値観、すなわち、食料自給、持続可能な農業、農村・都市のバランスのとれた発展、小農体制、特色ある農業を示した。

まず、島国である台湾の農業における主要な核心的価値は、食料自給・食料の安全保障の維持にあり、国民がひもじい思いをしないよう安定して供給し、健康に食べられるようにすることである。

次に、二つ目の核心的価値は、持続可能な農業であり、すなわち、環境に優しい生産方法によってバランスよく食料を生産・消費し、食料の安全保障を強化することである。

三つ目の核心的価値は、農村・都市のバランスのとれた発展であり、自然環境の安定を維持することである。農村の発展は主体性を具えるべきで、その発展方向は農業の多機能性を維持することであり、建設によって人々を呼び込むような都市型の発展ではなく、農村の発展指標を持って、農村と都市がそろって発展できるようにしなければならない。

本シンクタンクの主張は、世界的な気候変化の衝撃の下で、食料の安全保障を維持し、食料価格の合理的な水準を保ち、一般国民の生活に衝撃が及ばないよう、国民が安心して食料を享受でき、農業の生態環境及び文化への貢献を維持す

ることである。同時に、農業政策は、農業の経済成長への貢献、農産品の輸出による外貨収入、工業化で必要となる労働力への農村労働者の補填ばかりを重視すべきでない。また、より踏み込んで提起した持続可能な農業発展の核心的価値では、農業が総体経済の持続可能な発展において重要な役割を担っていることを強調した。同核心的価値に応えるため、政府は経済が持続的に成長し、平均所得が高止まっている状況下で、農民所得及び福祉、農村の環境にもテコ入れし、農業従事者と農業従事者以外の所得格差が縮小されるよう努めるべきで、そうしてこそ、安全な農業、幸福な農民、美しい農村の国家ビジョンを達成することができる。**BT**